

徳之島の闘牛における担い手と社会関係



名古屋大学環境学研究科D2 石川菜央

1. 日本の闘牛

- ルール: 牛VS牛
→先に逃げた方が負け
- 6地域で開催
- 始まり: 農閑期に
農耕牛を闘わせる



2. 問題意識

生業(農業で牛を飼う)が前提であれば・・・
農業の機械化→農耕牛いなくなる
→闘牛の消滅



生業と関係なく、
闘牛が続くのはなぜ？
↓
現代における存続の要因がある

石川の研究の課題



曾我(1991)・・・根強い人気, 山田(2001)・・・若者

参照: 伝統行事の存続

- 担い手にとっての意義に着目
→人と人とを地域内で結び付ける.
→地域を越えて結びつくこともある.

闘牛で着目
・人と人とを結び付ける点
・地域内, 地域外 の関係

研究の目的

徳之島における闘牛の
存続要因を
担い手の社会関係に着目して
解明する



担い手, 観光・行政, 後継者, 楽しみ

4. 徳之島と闘牛

- ・人口: 28090人(2000年)
- ・主な産業: サトウキビ
- ・闘牛の数: 約500頭

7

5. 闘牛の変遷と運営

700~400年前

1960年代

- ・農耕・運搬
- ・サトウキビを搾る

- ・高度経済成長
- ・農業の機械化

8

観光と行政

沖縄の牛主 観光客

観客: 2000~5000人

- × 観光資源
- × 行政の支援

9

闘牛大会の運営

主催者(団体)が入場料を取って行う

出資

→

入場料

−

経費

→

配当

30万円 × 20人 3000円 × 2000人 牛主へ出場料 (3~100万円)

観客が入る限り興行として成功

10

6. 牛主の生活

↑ 仕事と両立(1日4時間)

子供が世話を手伝う→

家族・近所とのつながり

11

7. 闘牛大会での応援

奥さんたち 子どもたち

親戚・集落の人 祝儀

↑ ↓

入場券

12

8. 島外との関係

(1) 本土への移住者

「闘牛は心の支え」

神戸

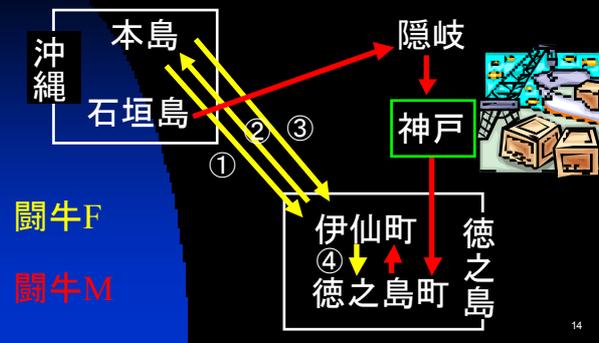
- ・徳之島出身: 3万人
- ・1990年代: 闘牛大会の開催

島とのつながり, アイデンティティ



13

(2) 牛の移動→人のつながり



14

9. 担い手にとっての闘牛の意義



勝つ: 牛を育てる技術で争う
「お金では買えない満足感」



喜びを共有
島内(家族, 集落)
+ 島外(移住者, 牛主)の絆
代替不可能な楽しみ

15

10. 子供と闘牛: 学校

島内での論争: 「闘牛を認めるか？」

肯定派

「励みになる」



闘牛をクラブへ

否定派

「闘牛より勉強を！」

校則で禁止

- ・牛主・勢子
- ・ハッピを着る

16

家族, 地域の中での引き継ぎ



家の闘牛

幼少時から世話



兄妹

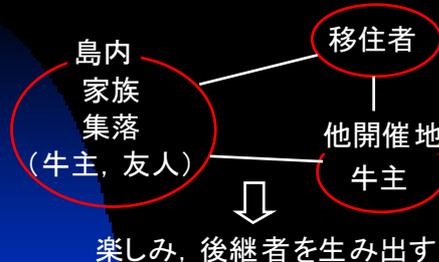
同級生

近所の牛舎に通う

若者「闘牛があるから島にいる」
→ 現実感のある夢

17

徳之島における闘牛の存続要因



徳之島⇄闘牛 代替不可能な夢

18